

村上正志理事長に訊く

「抗酸化が重要で、私が提唱する“抗酸化ネットワーク”的相互作用が強力な抗酸化作用を発揮します

—副作用のない本来あるべき医療による「あきらめないがん治療」を目指しています



村上正志(むらかみ・まさし)

医療法人貴正会 村上内科医院理事長。日本医師会認定産業医。日本抗加齢医学会専門医。点滴療法研究会高濃度ビタミンC点滴療法認定医。京都府立医科大学元客員講師。山口県生まれ。京都府立医科大学卒業。京都府立医科大学にて消化器内科専攻。1982年村上内科医院開設(臨床医でありながら研究にも携わる)。1988年医学博士号取得。母校の吉川前教授(日本抗加齢医学会名誉理事長)の抗加齢医学に興味を持ち、各種学会、研究会に出席。2005年抗加齢医学会の専門医になり、京都では珍しいアンチエイジング医学を加えた医療を開始。抗酸化物質であるビタミンCの効果は十分に理解していたため、2007年よりビタミンC点滴療法を開始。点滴療法研究会に所属し、高濃度ビタミンC点滴療法を中心に、副作用の少ない統合医療で、がんに苦しんでいる患者に希望を与え、QOL(生活の質)が向上するよう積極的に支援している。

京都市の東側に位置する山科は、西は滋賀県大津市と接する盆地であり、古くから東国と京都を結ぶ東海道が通る交通の要衝です。春の桜や秋の紅葉が美しく、天台宗京都五門跡の1つである毘沙門堂門跡があるなど歴史のあるところでもあります。また、この交通の便の良さに目をつけたのが、忠臣蔵で有名な大石内蔵助です。内蔵助は、赤穂藩お取りつぶしの後、この山科に隠れ住んで江戸にいる同志と連絡を取りつつ、敵である吉良家の目を欺くためとして京都の祇園や伏見などの花街で遊興しながら仇討ちの準備をして、後に見事に本懲を遂げたことはご存知の通りです。

今回紹介する「医療法人社団貴正会 村上内科医院」は、JRなど3線が乗り入れる山科駅から京阪電車で1つ目の四宮駅からすぐの場所にあり、山科駅からも徒歩約10分の好アクセスの地にあります。

また、名神高速の京都東インターより数分で車でも便利です。村上内科医院の村上正志理事長は抗加齢医学の専門医で、高濃度ビタミンC点滴療法を京滋地区で最初に導入されました。また、副作用のないがん治療に力を入れておられて、最近がん性腹膜炎の腹腔内治療もうようになり、遠方から受診に来られる患者さんも多くいらっしゃいます。



スタッフ一同となって診療にあたる村上内科医院



点滴はゆったりと受けられる

高濃度ビタミンC点滴療法は抗加齢医学に基づいて取り入れました

—タイムリーな話題をありがとうございます。

では、がん治療についてお伺いしました。

—これまでがん患者さんの期待のことですが、まずは早期に取り入れられた経緯をお話しください。

村上 高濃度ビタミンC点滴療法は、私は学んできた抗加齢医学に基づいて取り入れました。老化は体のサービス

によって取り入れました。老化は体のサービスに例えられ、酸化した状態から生じます。ですから酸化しないことは老化しないことですから、「抗酸化」が重要なのです。当院で行っている高

シリーズ 医療の現場から